

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目】 【国語教育専攻】

解答上の注意

- 一、国語教育専攻の入学試験問題は、「専門科目・選択」（配点60％）と「専門科目・共通」（配点40％）に分かれています。
- ①「専門科目・選択」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（選択一～選択七）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・選択」で 解答すべき問題
国語科教育研究指導	幸田 国広	選択一 国語教育
日本語学研究指導	松木 正恵	選択二 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	松本 直樹	選択三 古典文学 I 上代文学
国文学研究指導	新美 哲彦	選択四 古典文学 II 中古文学
国文学研究指導	福家 俊幸	選択五 古典文学 III 中世文学
国文学研究指導	大津 雄一	選択六 中国古典文学
国文学研究指導	田淵 句美子	
国文学研究指導	内山 精也	
国文学研究指導	堀 誠	
国文学研究指導	石原 千秋	
国文学研究指導	金井 景子	選択七 近代文学
国文学研究指導	五味淵 典嗣	
国文学研究指導	和田 敦彦	

②「専門科目・共通」は、出願時に届け出た研究指導・指導教員の専門分野により、左記の表の「解答すべき問題」（共通A～Cのいずれか一問）を解答しなさい。なお、「解答すべき問題」以外を解答した場合、当該解答は「0点」となります。

志願票に記入した 研究指導名	志願票に記入した 指導希望教員名	「専門科目・共通」で 解答すべき問題
日本語学研究指導	松木 正恵	共通A 日本語学（日本語教育を含む）
国文学研究指導	石原 千秋	共通B 近代文学
国文学研究指導	五味淵 典嗣	共通C 近代文学

- 二、解答用紙は、「問題番号」ごとに一枚使用すること。全ての解答用紙の所定欄に、受験番号・氏名・研究指導名・指導教員名、ならびに「問題番号」（例「選択八」・「共通A」など）を必ず記入すること。
- 三、解答用紙のホッチキスは、はずさないこと。また、無解答の解答用紙でも提出すること。
- 四、問題用紙は「十三枚」（本ページ含む）、解答用紙は「二枚」です。必ず枚数を確認すること。

以上

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

「選択一」 国語教育

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次のA～Hのうちから二題を選び、それぞれ簡潔に説明しなさい。

- | | |
|------------|----------------|
| A 「イエスシ」読本 | B センテンスメソッド |
| C 雑誌『綴方生活』 | D 一読総合法 |
| E 学力の三要素 | F GIGAスクール構想 |
| G 知徳ノ啓発 | H リーディングスキルテスト |

二、次のI～Nのうちから二題を選び、具体的に解説しなさい。

- | |
|-----------------------------|
| I 芦田・友納論争における「随意選題」 |
| J 探究的な学習と言語能力の育成 |
| K マルチモーダル・リテラシーと批判的思考 |
| L 時枝誠記の古典教育論の特徴 |
| M 大村はま国語単元学習における「学習の手引き」の機能 |
| N 観点別学習状況の評価とその在り方 |

三、「A 話すこと・聞くこと」における「話し合い」の指導と、「C 読むこと」における「話し合い」や他教科における「話し合い」との違い、及びそれらの関係について、

- ①国語科における系統的な指導の観点
- ②カリキュラムマネジメントの観点

以上の二観点から、具体的事例を挙げて詳しく説明しなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択二〕 日本語学

一 次のA～Lの事項のうちから四題を選び、説明しなさい。（解答の際には、選択した問題番号を明記すること。）

- | | | | | | |
|---|------|---|-------|---|-------------|
| A | ヴォイス | B | 異形態 | C | サイレントウェイ |
| D | 音節と拍 | E | 心理言語学 | F | 『てにをは紐鏡』 |
| G | 終助詞 | H | パラ言語 | I | 和文特有語と訓読特有語 |
| J | 大槻文彦 | K | 方言圏論 | L | ポライトネス |

二 次のM～Oのうちから一題を選び、具体的に論じなさい。（解答の際には、選択した問題番号を明記すること。）

- M 係り結びの機能とその崩壊
N 日本語のテンスとアスペクトの関係性
O 文章分析と談話分析の研究手法・研究目的の違い

三 日本語学とはどのような学問か。専門外の人にもわかりやすいように、具体例を交えながら、学問領域・研究対象・研究方法・研究の意義・研究の応用可能性等について多角的に述べなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科

修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 「国語教育専攻」

〔選択三〕 古典文学 (I) 上代文学問題

一、次の (A) ～ (D) のうちから、二題を選択して論述しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- (A) 『古事記』の三巻構成
- (B) 『日本書紀』神代巻の構成
- (C) 常陸国司解
- (D) 万葉第三期

二、次の (E) ～ (K) のうちから、三題を選択して簡潔に (二題あたり解答用紙五行以内) 説明しなさい。解答の際には、選択した問題番号を明記すること。

- (E) 稲羽の素戔
- (F) 出雲国造神賀詞
- (G) 柿本人麻呂
- (H) 『万葉集』巻八
- (I) 風土記逸文
- (J) 歌垣歌
- (K) 持統天皇

三、上代文学作品の享受の歴史を踏まえ、それを研究することの意義と、志願者自身の研究方針、研究テーマについて具体的かつ簡潔に (解答用紙一〇行以内) 述べなさい。

(上代文学問題 以上)

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

【専門科目・選択】 【国語教育専攻】

〔選択 四〕 古典文学(Ⅱ) 中古文学

※解答に際しては選択した問題番号を明記すること。

一、次の(A)～(D)のうち、二題を選択して論述せよ。

- (A) 『伊勢物語』と和歌
- (B) 『蜻蛉日記』の特質
- (C) 『源氏物語』の受容
- (D) 和歌と物語

二、次の(E)～(M)のうち三題を選択して、簡潔に説明せよ。

- (E) 『竹取物語』
- (F) 『古今和歌集』
- (G) 『とりかへばや物語』
- (H) 『平中物語』
- (I) 『和泉式部日記』
- (J) 『更級日記』
- (K) 藤原定子
- (L) 物語文学の語り
- (M) 平安時代の文学における召人

三、中古文学を学校教育で学ぶ意義とは何か、あなたの考えを述べよ。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択五〕 古典文学 (Ⅲ) 中世文学

一、次の①～⑧の中から二題を選択して、詳しく論述しなさい。

- ① 『平家物語』に見られる仏教思想について
- ② 琵琶法師の平家語りについて
- ③ 『将門記』『陸奥話記』の特質と文学史的な位置づけについて
- ④ 『今昔物語集』の特質と文学史的な位置づけについて
- ⑤ 宮廷女房の役割・機能と文学形成について
- ⑥ 中世における題詠歌と贈答歌について
- ⑦ 鎌倉時代物語と日記文学の関係について
- ⑧ 伝本研究の意義について

二、次の①～⑩の中から三題を選択して、簡潔に説明しなさい。

- ① 承久記
- ② 方丈記
- ③ 義経記
- ④ 吾妻鏡
- ⑤ 古事談
- ⑥ 定家八代抄
- ⑦ 源家長日記
- ⑧ 千五百番歌合
- ⑨ 続後撰和歌集
- ⑩ 正徹物語

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」 【国語教育専攻】

〔選択六〕 中国古典文学 問題

□ 欧陽脩「秋声賦」の一節である。これを読んで、設問に答えなさい。

歐陽子方夜讀書、聞有聲自西南來者。悚然而聽之曰、「異哉。初淅瀝以蕭颯、忽奔騰而砰湃、如波濤夜驚、風雨驟至。其觸於物也、鏗鏘錚錚、金鐵皆鳴、又如赴敵之兵、銜枚疾走、不聞號令、但聞人馬之行聲。」予謂童子、「此何聲也。汝出視之」。童子曰、「星月皎潔、明河在天。四無人聲、聲在樹間」。予曰、「噫嘻、悲哉、此秋聲也。胡爲而來哉」。蓋夫秋之爲狀也、其色慘澹、煙霏雲斂。其容清明、天高日晶。其氣慄冽、砭人肌骨。其意蕭條、山川寂寥。故其爲聲也、淒淒切切、呼號憤發、豐草綠縹而爭茂、佳木蔥籠而可悅、草拂之而色變、木遭之而葉脫。其所以摧敗零落者、乃其一氣之餘烈。

〔設問一〕 傍線①「予謂……來哉」を、書き下し文にするか、現代中国語の発音記号（ピンイン）で書くか、いずれか一つを選んで答えよ。

〔設問二〕 傍線②「故其……餘烈」を和訳せよ。

〔設問三〕 作者欧陽脩について知るところを記せ。

□ 次のア～オの中から一つを選択し、その記号を解答欄に記した上で、説明ならびにあなたの考えを記しなさい。

ア 「文言」と「白話」の小説史的展開について

イ 「新楽府」と「古文復興」について

ウ 中国文学と政治の関わりについて

エ 日中比較文学の題材と方法について

オ 漢文教育における「日本漢文」の意味について

□ 次の(A)～(J)の中から三つの項目を選び、それぞれの文学史ないしは文化史的意味を中心に説明しなさい。

(A) 詩の六義

(B) 許慎

(C) 「高唐賦」

(D) 『滄浪詩話』

(E) 江西詩派

(F) 『和漢朗詠集』

(G) 「詩中有画」

(H) 三言二拍

(I) 空海

(J) 魯迅「狂人日記」

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 一般・外国学生入学試験問題

「専門科目・選択」

「国語教育専攻」

「選択七」近代文学

一 日本近代文学の中心的なテーマについて、あなたの考えを述べなさい。

二次の(A)と(E)の中から一題を選択して論じなさい。

- (A) 深刻小説について
- (B) 自然主義文学について
- (C) 関東大震災と文学について
- (D) 転向文学について
- (E) 日本近代文学における検閲と言論統制について

三次の(A)と(G)の中から三題を選択して説明しなさい。

(「」は作品名、『』は雑誌名を示す)

- (A) 「不如帰」
- (B) 泉鏡花
- (C) 『明星』
- (D) 『白樺』
- (E) 菊池寛
- (F) 吉屋信子
- (G) 「墮落論」

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【国語教育専攻】
「専門科目・共通」

〔共通A〕 日本語学（含日本語教育） 松木正恵

次の文章は、阪倉篤義『改稿 日本文法の話』（一九七四年三月 教育出版）の最後尾に掲載されている。
「一〇 品詞分類・まとめ」の一部である。（部分的に省略・改変したところがある。）
この文章を読んで、後の問いに答えなさい。

われわれの顔つきや性格が、みなすこしずつ違っているように、単語もまた、その形態か、意味か、機能かが、すこしずつみな違っていて、完全に同じものは一つもないが、しかし、小異を捨てて大同につくとすれば、ほぼ共通の性格を持つと考えられる単語どうしを集めて、以上十一ほどのグループに分類することができる。そのなかをさらにこまかく分けることも、もちろん可能であると同時に、反面また、そのグループごとの相似点をとりあげて、一段上のレベルで大きくこれを、体言とか用言とか副用言とかにまとめることもできたわけである。そして結局、「詞」と「辞」という、二つの大きなグループにまで到達した。そこで、以上に述べたところを思い返しながら、今度は逆に、単語全体というところから出発して、それが、どういう点に基づいて次第にこまかく分類されていくかを考えてみよう。その際、なにかの基準が必要になるが、文との連関において単語を考えるとという意味で、その単語の「機能」ということを第一におきたいと思う。しかし、これ一つを基準として分類を徹底させるということは、理想的ではあるが、なかなか困難であり、また、単語の機能は、当然その意味や形態とふかく関連しあうものだから、以下、そういう面をも同時に考えあわせて行くことになる。

さて、単語はまず大きく二つに分けられる。一つは、主体に対立する客体界の事ごらの概念化された表現という面の強いものであり、一つは、主体の立場（判断・感情・欲求など）が直接的に表現されたという面の強いものである。前者が①と呼ばれ、後者が②と呼ばれることは、今までくり返し述べてきた。 (中略)

ただこのなかで、「まあ」「いいえ」「さあ」のような、感動詞と呼ばれる語だけは、さきに見たように、特殊なものとして、はじめから区別しておく必要がある。一般的に言って、③は、④を包みこみ、文を統一して具体的な表現をなすはたらきを持ち、かつ、⑤のほかに⑥はつねに⑥と結合して用いられるのに対して、⑦は独立的に用いられることがある。

〔辞〕 (感動詞)

つぎに詞について考えてみると、このなかには、「花」「咲く」のように、文の根幹をなすともいうべき主語・述語にみずからなり得る単語と、「いわゆる」「ゆっくり」のように、つねにそれらに依存して、副次的に修飾語としてだけ用いられる単語とがある。前者を自用語、後者を副用語と呼ぶ。

詞 (自用語)
副用語

自用語について考えてみると、これらはいずれも、述語にも修飾語にも（主語にも）なり得るものだが、そのうち、(a)「本」「私」のように、判断辞をともなしてはじめて述語になり得るもの、すなわち「何々が何々だ」という型の文の述語になるものと、(b)「行く」「白い」「静かだ」のように、単独で述語になり得るもの、すなわち「何々がどうこうする」「何々がある」「何々がどうこうだ」という型の文の述語になるものがある。それはつまり、前者(a)が活用しないのに対して、後者(b)が活用することによる。活用するということは、みずからのなかに辞の要素を含んでいるということだからである。前者を体言と呼び、後者を用言と呼ぶ。

自用語 (体言)
用言

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

体言は、さらに、事がらを純客体的に、名でもって表すものと、「あなた」「これ」のように、話し手との関係において表すものとにわかれる。前者が名詞、後者が代名詞である。すなわち、名詞は、もつとも詞的な詞だと言える。名詞のなかに、さらに「三つ・八番・五百人」のような数詞(数をもつて表すもの)を分けることもできる。

体言 { 名詞 (数詞)
代名詞

用言の方は、そのなかに、(a)「書く」「ある」のように、「何々がどうこうする」「何々があ
る」という型の文の述語になるものと、(d)「寂しい」「元氣だ」のように、「何々がどうこう
だ」という型の文の述語になるものがある。これを意味の上から言うと、前者(a)は、性質・状
態を推移的・流動的なものとして表現し、後者(d)は、それを静止的・固定的なものとして表現し
ている。前者が動詞、後者が形容詞・形容動詞である。形態の面から言うと、五十音図の一行に
活用するもの(動詞)と、二行にわたって活用するもの(形容詞)と、動詞に似た活用をしながら、「に・と」という特殊な活用形を持ち、かつ、それが副詞形としての機能を持つという点で
形容詞に似ているもの(形容動詞)とがあることになる。

用言 { 形容詞
形容動詞

以上で自用語は大体分類された。つぎは副用語だが、このなかには、形容詞的修飾語としてだ
け用いられるものと、⁴副詞的修飾語としてだけ用いられるものがある。前者が連体詞、後者が
副詞と呼ばれる。それぞれ、形容詞的修飾および副詞的修飾の陳述をになうべき⁵の要素を、う
ちに含んでいると考えられる。そして、いわゆる陳述副詞は、むしろ辞の性格を持つものとし
て、少し区別して考えなければならない。

副用語 { 連体詞
副詞 (陳述副詞)

以上で詞の分類が終った。つぎに辞だが、まず、このうちで、(e)単独で用いられるものと、(f)
つねに詞と結合して文節を構成するものが、わかれる。前者(e)は、並存あるいは継起する二つ
の事がらに対する話し手の立場を表すもの、すなわち接続詞である。それに対して、後者(f)は、
(g)話し手の、事がらの存在に関する判断、回想および確認、不確実な判断、敬讓の気持ちなどを
表すものと、(h)おなじく話し手の、事がらと事がらとの関係に対する認定、並存または継起する
二つの事がらに対する立場、ある事がらを取りあげて強く提示したり、限定したりする気持ち、
感動・詠嘆・禁止の気持ち、などを表現するものとにわかれる。前者(g)は助動詞、後者(h)は助詞
である。助動詞には、共通して判断が含まれているが、それは、これらが活用することと関係が
ある。助詞には活用がない。

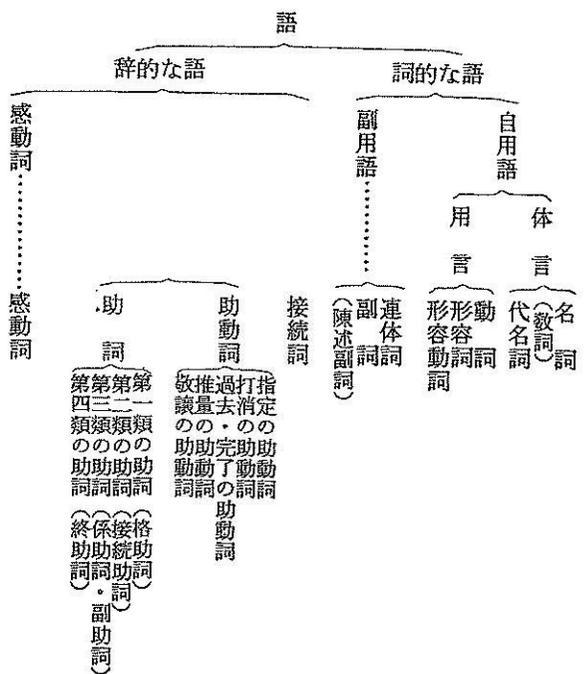
辞 { 接続詞
助動詞
助詞

以上を一つにまとめると、結局つぎのページのようになる。

(問題文最後のページに掲載)

さて、これをながめてみて考えられることは、すべての単語を、客体系の事がらだけを表すも
の、主体的な立場だけを表すもの、というように、きっぱり二つにわききって考えることは、む
ずかしいのではないかとということだ。たしかに、その両極に位するもの、すなわち、もつとも詞
的な詞ともいふべき「名詞」と、もつとも辞的な辞ともいふべき「第四類の助詞」との間には、
その性格にいちじるしい相違が認められる。しかし、代名詞には、すでにやや主体的なものが関
係し、用言や副用語には、(a)の要素が同時に含まれていて、いわば辞を含む詞であると考えら
れ、陳述副詞は、もはや辞の領域にふみこんでいると思われるものであって、それと、辞に属す
る⁶との間は、非常に近い。しかも、一応、主体的なものを表すという立場で考察してきた
辞のなかにも、^B指定・打消・完了の助動詞や^C第三類の助詞にすら、いくぶん⁷的的な性格が認
められなくはない。そうなってくると、むしろ詞的な語と辞的な語とは、その中間的なものを介
して、相互に連続していると見るべきではないかと思われるのである。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
 修士課程 外国学生入学試験問題
 【専門科目・共通】 【国語教育専攻】



(後略)

- 問1 傍線部1で重視している「単語の機能」とはどのようなことを指すか。具体的に説明しなさい。
- 問2 空欄①⑩に、「詞」か「辞」のいずれかの用語を入れなさい。
- 問3 括弧〈X〉に入る品詞名を答えなさい。(〈X〉は文中に二か所あり、同じ品詞名が入る。)
- 問4 二重傍線部A・B・Cの術語について、具体例を挙げながらわかりやすく説明しなさい。
- 問5 傍線部2はどのような意味か。活用と「辞」との関係について詳しく説明しなさい。
- 問6 傍線部3は動詞と形容詞・形容動詞の区別に関する基本的な捉え方だが、(c)の動詞の中には、「書く」「ある」と違って、むしろ(d)の「何々がどうこうだ」といった静止的・固定的なものを表現する一群が存在する。そのような性質の動詞を二つ挙げ、具体的な用例を示しながら説明しなさい。
- 問7 傍線部4は「副詞」と呼ばれる品詞の中心的な性質と言えらるが、副詞の中には、「ある種の名詞」を修飾できる副詞も存在し、その場合は連用修飾ではなく連体修飾の機能も有していることがわかる。このようなタイプの副詞の名称を挙げ、具体的な用例を示すとともに、「この」「ある種の名詞」とはどのような種類の名詞なのか、詳しく説明しなさい。
- 問8 傍線部5はどのような意味か。「陳述副詞」の具体例を複数挙げながら、他の副詞と区別して考えなければならぬ理由をまとめなさい。

以上

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【専門科目・共通】 【国語教育専攻】

【共通 B】（これは研究指導に「石原千秋」を希望する受験生のための問題です。）

以下に示すのは、武者小路実篤『お目出たき人』（一九一一年）の末尾です。これは、「自分」が鶴という女性に思いを寄せ、人を介して鶴の家に結婚を申し込むが断られ、その後、鶴が他の人と結婚してしまう話です。この一節を読んであとの問いに答えなさい。

その後自分は鶴のことを空想の倉から出して記憶の倉の中に入れてようと努力した。しかしそれは徒らに淋しい苦しい努力であって無益な努力であった。時間の手を任せるより仕方がない。

自分は花をすべてとりさられた花園の内を淋しい心をもって自分をあざけりながら歩きまわっていた。

女に餓えている自分は他日また女を恋し得るかも知れぬ。して今の失恋を祝福する時が来るかも知れぬ。しかし今の自分にはそんな考は何にもならない。たゞ淋しい、情けない。やゝともすると涙ぐむ。

自分は旅行しようかと思つた。このまゝいては身体をこわしはしないかと思つた。しかし自分は自分を勇士と思つている。自分を恋せぬ女が人妻になるうともそは自分にとって幸なることであろうとも不幸なことではないはずだ。そう云う女を妻にしなかつたことは喜ぶべきである。自分は自業自得の失恋の為に身体をこわすことを恐れるような人間ではないはずだ。自分はするだけのことをした以上は運命を甘受するだけの哲人にならなければならない人間だ。

自分は東京にとゞまることにした。そうして淋しい心をかくして平気な顔をしていた。父や母や川路氏はこれならあんなにまで結婚させようと心配しないでもよかつたと思われたにちがいない。

しかしするだけのことをしなければどうして我慢が出来よう。それがせめてもの慰藉じゃないか。最愛の児を失つた母にとって出来るだけのことをしたと云うのが唯一の慰藉じゃないか。

十一月三日の晩に自分は今年工科を卒業した友を訪れた。そうして何げなく鶴の夫のことを聞いた。友はよく知つていた。そうして快活ないゝ人だと云つた。立派な身体したいゝ人だと云つた。そうして近頃恋女房をもらつて元気だと云うことまでしゃべつた。

自分は何げなく『そうかい』と云つた。友は話したあとで不意に『なぜ聞くのだ』と聞いた。自分は顔のほてるのを覚えた。そうしてやゝともすると涙が出そうなのでよわつた。

『一寸聞きたいことがあつたからさ』とわけのわからないことを云つた。友は別に追窮しなかつた。

その後暫らくして自分は何時のまにか鶴は自分を恋してしてくれたのだが父や母や兄のすゝめで進まずながら人妻になつたのだと理由もなしに思うようになった。そうしてそれから一月もたつた。今は鶴をあわれむような気分になつた。そうして鶴の運命が気になりだした。

自分はこの感じがあやまつているか、いなかを鶴に逢つて聞きたく思っている。

しかし鶴が『妾は一度も貴君のことを思つたことはありません』と自ら云おうとも、自分はそれは口だけだ。少くも鶴の意識だけだと思ふにちがいない。

【問一】「自分」はいかにも「お目出たき人」に思えるが、その理由をこの一節から根拠をあげて説明しなさい。

【問二】一方、作者は「お目出たき人」だとは思われません。その理由をこの一節から根拠をあげて説明しなさい。

二〇二二年度 早稲田大学大学院教育学研究科
修士課程 外国学生入学試験問題
【国語教育専攻】
「専門科目・共通」

【共通 C】（五味淵典嗣）

○次に示すのは、芥川龍之介『舞踏会』の一節である。当時一九歳の「明子」は、父親に連れられ、鹿鳴館で開催された舞踏会に参加した。「明子」は、そこで「フランスの海軍将校」と出会い、彼と「ヴァルス」を踊ったあと、腕を組んで階下の部屋に向かった。以下は、それに続く場面である。これを読んで、後の問いに答えよ。

フランスの海軍将校は、明子と食卓の一つへ行つて、一しよにアイスクリームの匙を取った。彼女はその間も相手の眼が、折々彼女の手や髪や水色のリボンを掛けた頸へ注がれているのに気がついた。それはもちろん彼女にとって、不快なことでも何でもなかった。が、ある刹那には女らしい疑いもひらめかずにはいられなかった。そこで黒い天鵝絨の胸に赤い椿の花をつけた、ドイツ人らしい若い女が二人の傍を通つた時、彼女はこの疑いをほのめかせるために、こういう感歎の言葉を発明した。

「西洋の女の方はほんとうにお美しいですよ。」

海軍将校はこの言葉を聞くと、思ひの外真面目に首を振った。

「日本の女の方も美しいです。殊にあなたなをば——」

「そんなことはございませんわ。」

「いえ、お世辞ではありません。そのまますぐにパリの舞踏会へも出られます。そうしたらみんなが驚くでしょう。ワットオの画の中のお姫様のようですから。」

明子はワットオを知らなかった。だから海軍将校の言葉が呼び起した、美しい過去の幻も——森の噴水と濁れて行く薔薇との幻も、一瞬の後には名残りなく消え失せてしまわなければならなかった。が、人一倍感じの鋭い彼女は、アイスクリームの匙を動かしながら、わずかにもう一つ残っている話題にすがることを忘れなかった。

「私も、パリの舞踏会へ参つてみたいとございますわ。」

「いえ、パリの舞踏会も全くこれと同じことです。」
海軍将校はこう言いながら、二人の食卓を繞っている人波と菊の花とを見廻したが、たちまち皮肉な微笑の波が瞳の底に動いたと思うと、アイスクリームの匙をやめて、

「パリばかりではありません。舞踏会は何処でも同じことです。」と半ば独り語のようにつけ加えた。

一時間の後、明子とフランスの海軍将校とは、やはり腕を組んだまま、おおぜいの日本人や外国人と一しよに、舞踏室の外にある星月夜の露台に佇んでいた。

欄干一つ隔てた露台の向うには、広い庭園を埋めた針葉樹が、ひっそりと枝をかわし合つて、その梢に点々と鬼灯提灯の火を透かしていた。しかも冷かな空気の底には、下の庭園から上ってくる苔の匂いや落ち葉の匂いが、かすかに寂しい秋の呼吸を漂わせているようであった。が、すぐ後の舞踏室では、やはりレエスや花の波が、十六菊を染め抜いた紫縮緬の幕の下に、休まない動揺を続けていた。そうして又調子の高い管絃楽のつむじ風が、相変わらずその人間の海の上へ、用捨もなく鞭を加えていた。

勿論この露台の上からも、絶えずにぎやかな話し声や笑い声が夜気を揺すっていた。まして暗い針葉樹の空に美しい火花が揚がる時には、ほとんど人とよめきにも近い音が、一同の口から洩れたこともあった。その中に交じつて立っていた明子も、そこにいた懇意の令嬢たちとは、さっきから気軽な雑談を交換していた。が、やがて気がついて見ると、あのフランスの海軍将校は、明子に腕を借したまま、庭園の上の星月夜へ黙然と眼を注いでいた。彼女にはそれが何となく、郷愁でも感じているように見えた。そこで明子は彼の顔をそっと下から覗きこんで、

「お國のことを思つていらつしやるのでしょう。」と半ば甘えるように尋ねてみた。

すると海軍将校は相変わらず微笑を含んだ眼で、静かに明子の方へ振り返った。そうして「ノン」と答える代わりに、子供のように首を振つてみせた。

「でも何か考えていらつしやるようでございますわ。」

「なんだか当てて御覧なさい。」

その時露台に集まっていた人々の間には、又一しきり風のようなざわめく音が起り出した。明子と海軍将校とは言い合わせたように話をやめて、庭園の針葉樹を圧している夜空の方へ眼をやった。そこにはちょうど赤と青との火花が、蜘蛛手に闇をはじきながら、将に消えようとするところであった。明子には何故かその火花が、ほとんど悲しい気を起させるほど美しく思われた。

「私は火花のことを考えていたので。我々の生のような火花のことを。」

しばらくしてフランスの海軍将校は、優しく明子の顔を見下しながら、教えるような調子でこう言った。

問一 傍線部「やはりレエスや花の波が、十六菊を染め抜いた紫縮緬の幕の下に、休まない動揺を続けていた」とあるが、これは「舞踏室」のどんな様子を表しているか、説明しなさい。

問二 この場面で「明子」「海軍将校」はそれぞれどのような人物として描かれているか。本文中の表現を根拠にしなから、あなたの考えを書きなさい。